

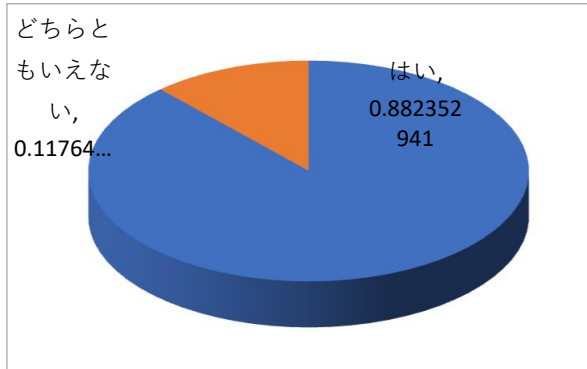
R5年6月 ファミリーキッズ座間における自己評価結果

回収率 7/7 6月実施

ファミリーキッズ座間では、職員ハンドブックを基本にしながら、障がい特性に配慮した支援を行い、地域社会での生きづらさを緩和できるように、社会的迷惑行動に気づきながらお友だちと楽しく遊べるように支援を行っています。また食生活が豊かになるように色々なおやつを提供しながら食の広がりも行っていきます。

「自分らしく楽しく生活できる」よう興味関心を広げ、合わせて意思決定の幅が広がるように支援しています。

1. 環境・体制整備



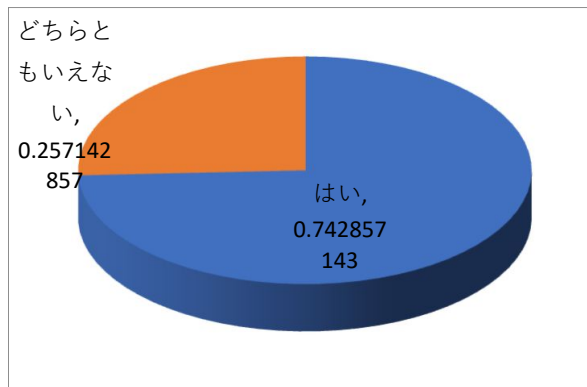
コメント:

スペースは、レクスポーツ活動で感覚統合が行える広さを確保できています。同時に宿題や工作活動も行えるため使いやすい印象は変わりありません。

職員は2対1で配置していますが、外出等においては、興味関心の広がりや社会視野の拡大を図るきめ細かな支援が出来る様に10:6で職員を配置し、更にボランティアを加え実施しています。

どちらともいえないは、広いにこしたことはないという思いと、課題行動の多いお子様の送迎を考えた時、必ずしも配置数が適切とは思えないという意見が反映されています。

2. 業務改善



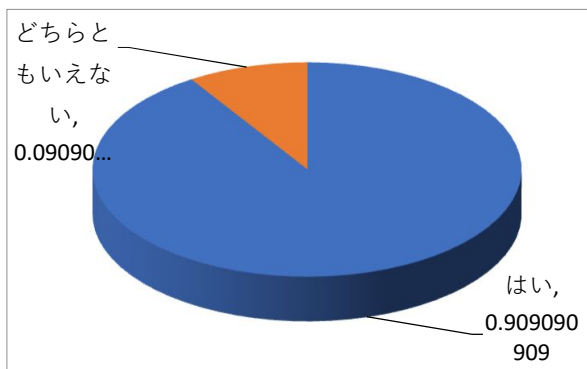
コメント:

ハンドブックによる内部研修を基本に、必要とされる対外研修がこの時期オンライン研修となっているため、多くの職員が参加しやすかったようです。情報交換は、日々の送迎やコードモン写真付きで報告できるため、わかりやすいと高評価を得ています。

保護者評価や事業所評価もネットで配信しています。

どちらともいえないは、第三者の評価は現在行っていませんので結果に反映されています。

3. 適切な支援の提供



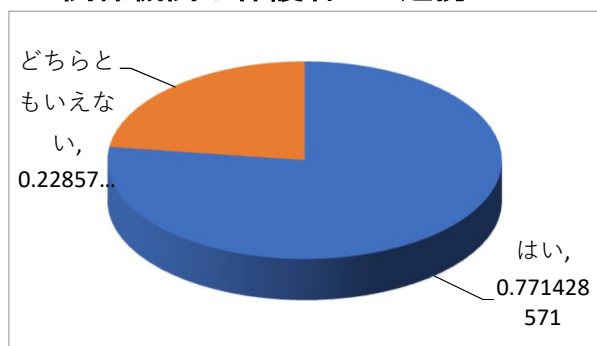
コメント:

アセスメントや個別支援経過、モニタリングなど職員が自由に共有出来るように、個別関連のファイルは別途に整理し見やすく保管しています。支援計画は「社会に出て自分らしく楽しく生活」出来る様に、ご家族のご希望と合わせて課題を整理し支援計画を作成しています。

活動の一貫として、プログラミング的思考の調理や工作など考え工夫しながら行えるようにしているため日々変化があり、固定化はありません。遠出外出、社会体験、地域交流やご家族参加の企画も多く、活動記録は全職員が行えるようにしています。

どちらともいえないは、標準化した数値評価を行っていないため結果に反映されています。

4. 関係機関や保護者との連携



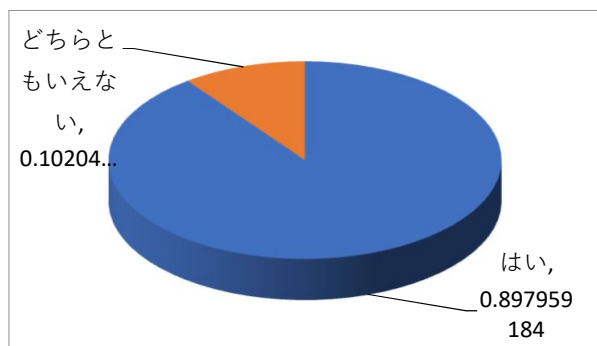
コメント:

お子さんの進路等については、ご本人の障がい特性に合わせながら、様々な社会資源をご紹介するなど具体的に相談に応じています。特に身体機能障がい、発作や、過緊張、湾曲や下肢捻転、嚥下困難、多動や他傷などの激しいお子さん等においては、様々なアドバイスを行っています。

専門的支援を行なう事により、お子さんが落ち着きご家族への安心の提供が来ています。児童クラブや学校等関連機関との情報交換や話し合いについては必要に応じて行っています。

どちらとも言えないは、ペアトレーニングについては、専門誌が求

5. 保護者への説明責任



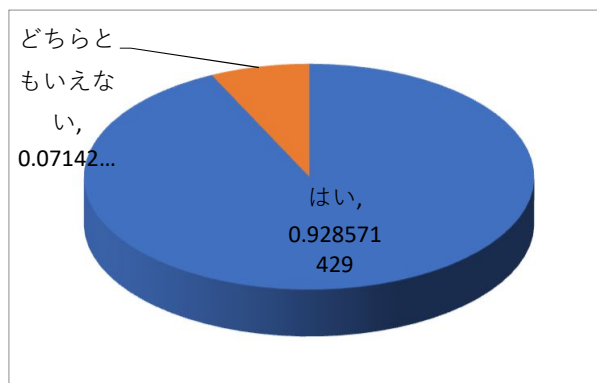
コメント:

行事等で地域の方やボランティアの参加、ご家族参加など呼び掛ける中でそれなりに地域交流が図られています。身体機能障がい、下肢捻転、嚥下困難、他傷などの激しいお子さん等においては、様々な専門的アドバイスを行っています。

お子さんが落ち着きご家族への安心の提供が来ています。も児童クラブや学校等関連機関との情報交換や話し合いなどは必要に応じて行っています。

どちらとも言えないは、父母の会が存在しないため、会の開催

6. 非常時等への対応



コメント:

現在ビルの1Fに移転し、災害時の避難が出来やすく、避難誘導もしやすくなり、ご家族からの安心感も頂いています。

昼食を購入して食べる場合のアレルギーなどへの配慮や、幅広いメニューを選び食されるように、歩いて行ける購入先も数か所利用しています。

マニュアルについては、災害や事故も規模が大きくなってきているため見直しを図りながら活用できるように作成しています。

どちらとも言えないは、大規模災害時の時は、対応の想像がつかない不安なお気持ちが反映されています。

・工夫点

1. 食の広がり

食に課題のあるお子さんの食生活を豊かに広げるため、色々なおやつを導入しながら食の楽しみ

の体験を提供し、食感広げ、お弁当の選択も出来る様に広がって来ています。(意思決定)

2. 集団生活

集団では上のお子さんは下のお子さんにやさしく教え、下の子は上のお子さんを見習って基本生

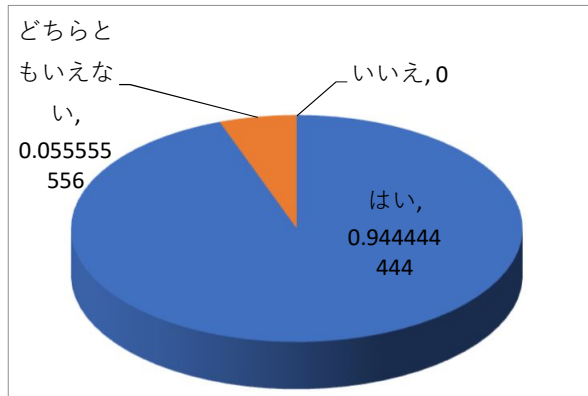
活が出来ようになります。ご家族からもお友だちと遊べるようになったと喜ばれています。

R5年度 ファミリーキッズ座間 保護者評価結果

6月実施

5月面談時に、アンケート実施。回収29／31名 2名回答無し 94%

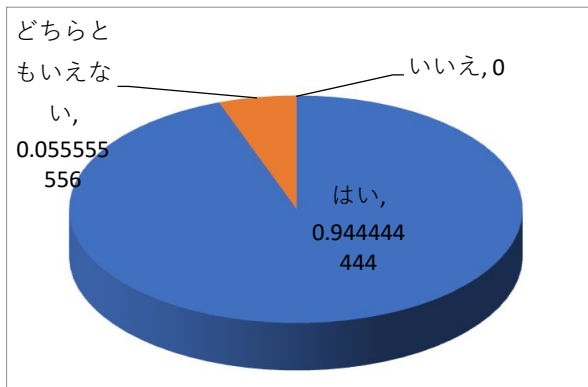
1. 環境・体制整備



職員の配置数や専門性には3:2の配置や専門的なアドバイスができる職員がいるため満足と成っています。スペース的には他事業ご利用の方からは広くて自由に遊べそうとの感想も多く寄せられています。

どちらとも言えないの内容はバリアフリーについてでした。設問の手すりやスロープは無い、また利用する立場でないのでどちらとも言えないという選択肢を選ばれ反映されています。

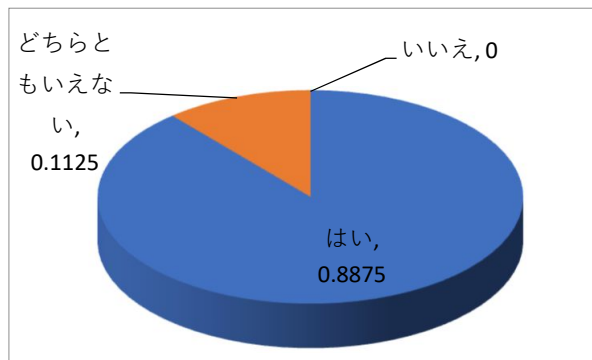
2. 適切な支援の提供



コメント:
公園や外出、等での触れ合い交流が含まれるのか悩まれた結果と思われます。
専門性と職員の対応から面談では、子どもの事をよく見て理解してもらっているとモニタリングや個別支援計画にはほぼ満足の回答で占められています。

どちらとも言えないは、設問で児童クラブや児童館とある為この交流について「どちらともいえない」にチェックが入っています。

3. 保護者への説明等

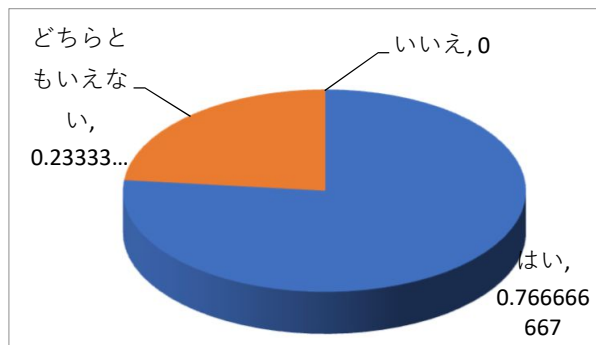


コメント:

現在苦情は有りませんが、お子様の家庭状況や卒業後の方針で悩まれ相談が多くあり、対応にはほぼ満足されています。

どちらとも言えないは、父母の会は、現状で情報交換が出来ており、色々な相談にも乗ってもらえているので父母の会そのものには「どちらともいえない」を選ばれています。

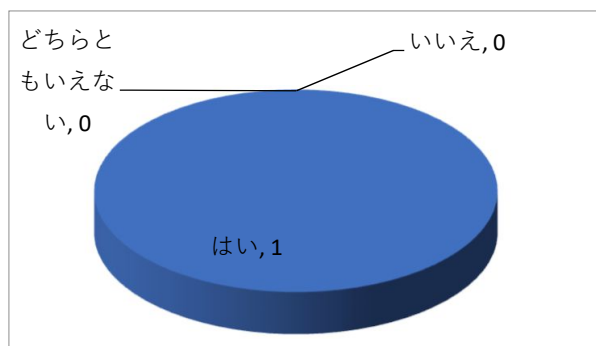
4. 非常時等への対応



コメント:

避難訓練は、半年に1回行いますが、地震が多く発生している中で被害規模が不明なため予想を超えた災害の時対応マニュアルに事業所、ご家族、社会が対応出来るのか、マニュアルそのものが役に立つのか。社会一般的にとらえ「どちらともいえない」の選択と成っています。

5. 満足度



コメント

障がい特性に基づいた身体機能のバラツキをまとめる活動の感覚統合、社会意欲につながるクオリティの高い工作。プログラミング的思考の調理、社会的ルールや社会視野を広げる多くの外出。地域交流の夏祭りやハロウィン、芋ほりなど。更に、キッズの特徴である集団生活(小学生から高校生、知的・身体障がい)を通して、お友だちと遊べるようになった、順番が待てるようになった、使える言葉が増えてきた、お手伝いが出来るようになった、切り替えが出来るようになったという声が数値になって表れています。キッズ広場における、ホッピングや一輪車、サッカーやティーボール等体を動かす活動も高評です。

面談や日々の送迎から寄せられたご意見

- ・ご家族が参加できるイベントがいつも楽しみ
- ・他の所で断られたが、受け入れてもらえ子どもが変わっていくのを見て嬉しかった
- ・生活ルールが身につき、待つことや順番を守る挨拶や言葉など育ってきていると感じる
- ・食が広がり、好き嫌いが減り、食事を楽しめるようになって驚いている
- ・コモンで活動写真、丁寧な活動状況等に満足している
- ・帰宅後、表情が穏やかで、放デイの事やお友だちの事も話してくれるようになった
- ・子どもがお友だちと遊べるようになったのが嬉しい
- ・宿題などを見てもらい、徐々に取り組めるようになった
- ・日時の変更や急な変更にも対応してもらえるので、助かっている
- ・クオリティの高い作品で家族で何時も楽しんで、話題になっている
- ・おやつ無料やポイント制で1食分のお弁当等でも経済負担が軽減でき嬉しい

頂いたご意見への対応(改善)

- ・室内行事や感覚統合を目指す集団活動、季節的行事や社会的行事、調理や工作などへ必ず

しも全員が毎回参加できる状況ではないため企画の立て方に一工夫必要と思われる

- ・緊急マニュアルについては公助を待つまでの、自助の範囲に視点を当てたマニュアル

編集の検討予知が望まれる

